

社会福祉法人 真宗協会



障害者支援施設

帯広慈光学園

やまびこ



今年の夢は...



目指せ初優勝！
石井生活支援員



「いっぱい食べてねー」
森下生活支援員

令和2年1月15日、学園で新年会行事が行われました。レクリエーションではグループ対抗の紅白玉入れ合戦を行い、「もっと投げて！」「頑張れー！」と声を掛け合った白熱の戦いの末、リサイクルグループが初優勝を飾りました♪皆さんで体を動かした後は、すき焼きをお腹一杯食べて楽しみ新しい年を迎えました。当日は帯広慈光学園開設60年の記念の日という事もあり、皆さんに「鶴の子餅」が振舞われ、笑顔あふれる一日となりました。



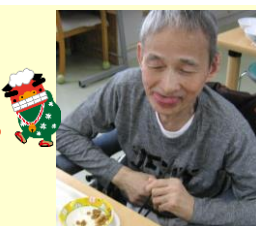
新年会



1月1日元旦、別府神社へ初詣に行きました。一年間元気に過ごせたことに感謝し、今年も元気に楽しく過ごせるようにと祈念しました。



初詣



鏡開きの1月20日、昼食を兼ねてお餅会を行いました。昨年「十勝ワイズメンズクラブ」様から寄贈頂いた餅米で作ったお雑煮をはじめ、納豆、大根おろし、小豆あん、きな粉と、沢山の味でお餅を楽しみました。



お餅会



帯広慈光学園 60 周年に寄せて



清野生活支援課長

平成 8 年入職・勤続 23 年

帯広慈光学園が開設されて 60 周年になります。昭和 35 年 1 月 15 日、法人創設者である菊地達男先生が初代施設長に就任されました。

当時は精神薄弱児施設の名称で児童数 60 名からの出発と聞き及んでいます。長い時間の経過と共に入所されている利用者様も歳を重ね、現在は平均で 40 歳半ばの良き「おじさん・おばさん」世代が多数を占める学園へと移り変わっています。その間、利用者支援に心血を注がれた数多くの職員や学園の運営を理解し支えて頂いた父兄の皆様、地域の方々の熱い思いに支えられ今日の帯広慈光学園があると思ひ感謝の念に堪えません。



私も、長い歴史のほんの一部分を利用者様と一緒に生活させて頂き、改めて障がい者福祉に携わる仕事の意義と楽しさを感じる日々を送っています。そうして思うことは、社会福祉は人と人との関係性で成り立つもの。例えて「川と中洲」を連想したとして「利用者」と私「利用者」と地域社会において、心と心がぴたり合っているかと思うと、川の水が中洲にぶつかったように何かの拍子でふっと、心も離れ離れになってしまう。



それがいつかまた洲の後ろで水が合流するように自然と双方から寄り合い、愛情や信頼を取り戻す。しかしまた次の洲にぶつかって別れ別れになる。福祉の仕事も、この繰り返しのように思えてなりません。脈々と時代を経てきた帯広慈光学園にも同様の「川と中洲」があり、多くの方々の熱意と努力で一つ一つ乗り越えて今日に至っていると考えるのは私だけでしょうか。

学園ホームページのスローガンに「ゆっくりと流れる時とともに生きて」との文言があります。この言葉の様に、これからも利用者様と共にゆっくりと、そして、しっかりと福祉の道を歩んでいきたいと思ひます。



教えて下さい！昔のこと

ベテラン職員に
インタビュー

○入職当時と現在で変わった事

昔は措置制度であったが今は契約制度となり、入職時は児童施設で 90 名程の児童がいました。

○思い出に残っている事

職員、児童全員でピョウタンの滝にキャンプに行き、夜花火を行い皆虫に刺されて帰って来た事。書ききれない程の思い出があります。

○慈光学園の良い所
会議等で職員が言いたい放題言えた所です。



高木生活支援員

昭和 43 年入職・勤続 51 年

○思い出に残っている事
昭和 57 年に勤務した際、まだ児童施設でしたので毎朝体育館に集まりピアノに合わせて園歌を歌っていた事です。

○慈光学園の良い所
利用者様がいつも明るく良い表情をされている所です。



中川生活支援主任
昭和 57 年入職・勤続 37 年

○入職当時と現在で変わった事
入職当時は木造建築で趣のある職員室でした。机の引き出しを開けるとネズミの糞が落ちていた事に衝撃を受けた事です。

社会参加の取り組み

「誠意ある社会人をつくる」。帯広慈光学園開設当時の指導目標です。障がいをもつ皆さんを支援していくなかで、「○○さん、手先が器用なのよ」「○○さんはこれが得意なのよ」と先輩職員から教えて頂きながら、利用者様が持つ「キラリと光るもの」を見つけ出し、その能力を十分に発揮し、

意欲を持って生活して頂ける事は、職員にとってこの上ない喜びです。地域社会においても、インクルーシブ（包括的）な考え方が浸透してきており、利用者様が活躍できる場所が増えてきているように感じます。社会の一員として皆で沢山の場所に出向き様々な体験をしていくなかで、「キラリと光る一粒の種」が大きな実になる事を願い、日々工夫を凝らしながら支援を行っています。



第 56 回 心身障がい児（者）

作品展示即会

令和 2 年 2 月 16 日～18 日

藤丸 8 階市民活動交流センター

大正ふれあいまつり

令和 2 年 2 月 16 日（日）

大正トレーニングセンター



今年度より複数のグループ合同で身体機能の維持・向上や楽しく充実した生活の提供を目的としたレクリエーションを行っています。内容としては、園内でのピアノ演奏や CD・楽器を使用した音楽療法、動物園や公園等の遊具を利用し普段と違った環境での活動を取り入れたり、夏には芝生や中札内体育館を利用したの「ボール遊び」「シャボン玉」「水遊び」等、冬季ではソリ滑りも計画しています。



レクリエーション

アクティブチームの合同活動



先日行ったペットボトルボーリングでは、ボーリンググレーンをテーブルを使って設置し本格的な雰囲気にする事で、白熱したレクリエーションとなりました。グループ間の垣根を越えて一緒に活動することで、コミュニケーション能力や社会性を得て頂いたり、他グループの作業の様子を見学して活動の幅や視野を広げて頂く機会を得たりと、有意義な活動となっています。

「障害者週間」
記念事業ポスター出展
作画会

1月11日、「障害者週間」の記念事業として行われるポスターコンクールの出展に向けて、作画会が行われました。皆さん真剣に取り組み、絵を描くのが苦手な方も職員がひと工夫した画材を使い、楽しんで作画に取り組んで頂けました。最後には皆さんの作品の発表会を行い、照れながらも誇らしげな顔をされた利用者様もあり、とても盛り上がりました♪

皆さんで拍手
しましょっ
川浪生活支援員

クリスマス会



12月20日、笹井ホテルにて2019年度クリスマス会が行われました。

菊池洋子さんの「乾杯!」の掛け声から始まり、スライドショーで今年度の活躍を振り返りながら楽しく食事を頂きました。食事の後はお楽しみ、仮装大会とカラオケ大会で大盛り上がりです。仮装大会では、職員と利用者様がサザエさんやドラえもんなど、様々な仮装をして登場しました。スポンジに自分たちでトッピングするケーキを作り、最後に職員サンタからクリスマスプレゼントも貰い、皆さん大満足でクリスマス会を終えました。

新職員のご紹介



11月により新たに加わった
吉田生活支援員です!

寄贈



柴田照男様より、
軍手1箱頂きました。
た。作業の際に活用
させて頂いたくださ
す。山村五十三様よ
り、お菓子を頂きま
した。お正月のおや

つに皆さんに召し上がって頂きました。
中標津の上原農場様より、キタアカリ
20キロ頂きました。昼食や夕食に美味
しく調理して頂いています。

ありがとうございます



編集後記

松の内も過ぎ厳寒の大正では
ありますが、皆さん元気に日中
活動に励まれています。本年は
帯広慈光学園開設60周年であ
り、開設当時の理念を胸に、心
新たに利用者様に寄り添った支
援を行ってまいります。

発行

帯広慈光学園

64-5106

編集責任者

施設長 小森 成人

編集者

生活支援員 石田 松井

南木 高橋 原田

嘉藤